

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立三根東小学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	令和3年度の学校評価結果については、主に以下のような成果(○)や課題(●)があった。 ○コロナ禍で成果目標に修正を加えた項目もあったが、全職員が協働体制を大切に行った取組に対しては、学校関係者評価において高い評価をいただいた。 ○「光るところ見つけカード」は、児童間だけでなく、職員や保護者からもよいところを見つけてもらいカードに書かれることで、自己肯定感の意識の高揚につながった。 ○「いのちと夢のコンサート」や6年生の「夢の教室」「ANAキャリア教育」、校長の「夢の実現」についての授業、「いのちを考える日」の集会など、命について考える様々な取組を行い、「いのち」について全校児童で考えることができたのは大きな成果であった。 ●SNSの使い方について、家庭できまりを考えるなど取組はよくなっているが、これからも継続した指導が必要である。
------------------	--

2 学校教育目標	キャッチフレーズ 「夢にチャレンジ東っ子」 学校教育目標 「元気いっぱい 笑顔あふれる」児童の育成 ～ 自分大好き、友だち大好き、学校大好きな子供 ～
----------	---

3 本年度の重点目標	1 心の安心を育む学校風土の確立と児童の自己肯定感の向上(自分づくり) 2 豊かな体験活動の充実と地域を生かした教育活動の推進(仲間づくり) 3 主体的・対話的で深い学びの推進と確かな学力向上(学びづくり)
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でのマイプランの共有及び校内研修等による取組を促進する。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成できたと自己申告した教師は88%であった。 ・教職員間でマイプランを共有し話し合う機会を設け、研究授業及び授業研究会を通じた校内研修により取組を促進した。	A	
	○児童の確かな学力の定着を図る。	○授業の話し合い活動に、積極的に取り組み、自分の考えを書いたり発言したりできていると思う児童の割合が80%以上 ○授業にICTを効果的に活用していると思う教職員の割合が80%以上。 ○ICTを活用した授業は分かりやすいと回答した児童が80%以上。	・話し合い活動の際には、色カードで自分の立場を明確にして臨ませると共に、話し合いの後、自分の考えを必ず表現させる。 ・1日に1時間以上は、授業でICTを活用する。	A	・12月実施のアンケート調査によると、「自分の考えをノートに書くことができている」と回答した児童は86%。「グループワークに積極的に参加することができる」と回答した児童は88%だった。しかし、「自分の考えを話すことができる」と答えた児童は69%にとどまった。 ・授業にICTを効果的に活用していると思う教職員の割合は86%だった。 ・ICTを活用した授業は分かりやすいと回答した児童は90%だった。	A	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校生活アンケートで、豊かな心を育む項目において、肯定的な回答をした児童の割合が70%以上。保護者70%以上。	・「人権集会」や「命を考える日」の取組を通して、命の大切さを実感させる。 ・道徳科の授業づくり等に関する校内研修や、「ふれあい道徳」を実施する。 ・異学年交流体験、保護者や地域人材を活用した授業を実施する。	A	・「人権集会」や「いのちを考える日」の集会を行うことによって、命の大切さや他者への思いやりを学べたことはよい経験であった。 ・「ふれあい道徳」は、参観日に実施するよう計画を立てていた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため参観日が減ってしまったにもかかわらず、ほとんどのクラスが実施できていた。 ・道徳に関するアンケートにおいて、命を大切にしているという肯定的な回答をした児童生徒は100%、保護者の回答も90%を超えており、目標を十分達成できた。	A	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的に対応ができていると回答した教職員の割合が70%以上。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修を学期毎に1回以上行う。 ・なかよしアンケートを年間6回行う。	A	・いじめ防止等について組織的に対応ができていると回答した教職員は、「あてはまる」が60%、「だいたいあてはまる」が33%で肯定的な回答をした教職員が93%であった。月1回の生徒指導連絡協議会や年間6回のなかよしアンケートなどで児童の様子について確認し、教職員間で共通理解を行うことができた。	A	・なかよしアンケートが形骸化しないためにも、いじめは絶対に許されないことを児童に指導していただき、「いじめ」や嫌な思いを受けたことを親、友人、先生などに伝えることができる環境が必要と思います。
	○児童の自己肯定感の向上	○学校生活アンケートで自分のよいところがあると思う子どもの割合が70%以上 ○「心タイム」等で、「光るところ見つけ」カードを年間5枚以上書く。	・なかよしアンケートに、自己肯定感に関わる項目を入れて実施する。 ・年8回の「心タイム」による光るところ見つけ活動や教職員・保護者による承認活動に取り組む。	A	・年8回の「心タイム」活動を実施し、自分では気づけなかった自分の良さを知りきっかけとなった。肯定的な回答をした児童が84%であった。 ・「光るところみつけ」の活動で、教職員や友だちから良さを認められたり、友だちの良さに気付いたりすることで、友達の良いところに目を向ける児童の行動が見られるようになってきた。 ・本年度はなかよしアンケートに、自己肯定感に関わる項目を入れて実施できなかったのでも来年度検討していく。	A	

●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○SNSなどの情報モラルを守れていると回答した児童の割合が80%以上。保護者80%以上。 ○むし歯保有率を20%以下にする。 ○新型コロナウイルス等の感染対策の取組ができていないと回答した児童の割合が80%以上。 ○早寝、早起き、朝ご飯の取組ができていないと回答した児童の割合が80%以上。	・SNSの使い方など、情報モラルについての指導を学期毎に1回以上行う。 ・むし歯の児童への治療勧告や自宅での歯磨きを勧める。 ・担任や養護感染が、新型コロナウイルス等の感染予防のための手洗い・うがい・換気等の指導を実施 ・早寝、早起き、朝ご飯の啓発を年2回実施。	A	・朝の時間や道徳の時間等でSNSにおける情報モラルの指導を実施した。守れていると回答した児童が98%、保護者が79%で児童の目標は達成できた。 ・むし歯の児童への治療勧告やむし歯保有者へのブラッシング指導が実施できた。むし歯保有率は4.3%で十分達成できた。 ・新型コロナウイルス等の感染対策の取組ができていないと回答した児童の割合が97%以上で十分達成できた。 ・早寝、早起き、朝ご飯の啓発をお便りなどで年2回以上実施できた。早寝、早起き、朝ご飯の取組ができていないと回答した児童の割合が88%で十分達成できた。	A	
	○「運動習慣の改善」	○目標を決めて、「スポーツチャレンジ」に1回以上取り組む。 ○晴れた日に、外で元気に遊ぶ児童が80%以上。	・縦割り班で八の字跳びにチャレンジする期間を決めて取り組ませる。 ・学級で種目と目標を決めて、「スポーツチャレンジ」に1回以上参加する。 ・月1回以上、学年で外遊びを決め、実施する。	A	・どの学年もスポーツチャレンジに取り組むことができた。県の設定した「ブロンズ・シルバー・ゴールド」記録を達成する学年もあった。	A	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○毎月の時間外勤務時間45時間以内の割合を90%以上にする。 ○計画的効率的に職務遂行できたと回答した職員の割合を70%以上にする。	・職員会議の内容精選・ペーパーレス化、通知表の2期制など効率的に職務を遂行し、全職員で協働的に教育活動を行い、時間外勤務時間の削減に取り組む。	A	・毎月(下半期8月～1月)の時間外勤務時間45時間以内の割合が94%だった。 ・学校評価アンケート(職員用)で、「計画的効率的に職務遂行できたか」の項目に肯定的な回答をした職員の割合が87%だった。	A	
	○教職員の心身の健康を支える職場環境づくり	○気持ちよく業務遂行できたと回答した教職員80%以上。	・相談しやすい職員室の雰囲気づくり ・職員が休みを取りやすい体制の工夫	A	・学校評価アンケート(職員用)の「気持ちよく働くことができますか。」の項目で、肯定的な回答をしていた職員が100%だった。職員が休みを取る際は、迅速に補欠計画を立てて対応することができた。	A	・教職員の働く環境が整えられていることだと思います。引き続き働き良い職場作りをお願いします。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
◎志を高める教育の推進	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○自分で頑張ることを決め、粘り強く、取り組むことができていると答える児童が85%以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設け、キャリアパスポートにまとめる。 ・命や夢に関する学級での取組を実施して、夢をもつこと、それに向けて努力することの大切さを理解させる。	A	・様々な教科、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設け、キャリアパスポートにまとめる活動を行った。また、「命について考える日」などの行事や命や夢に関する学級での取組を実施して、夢をもつこと、それに向けて努力することの大切さを理解させる活動を行った。その結果、「自分で頑張ることを決め、粘り強く、取り組むことができている。」という問いに対して肯定的に答えた児童が91%であった。	A	
○地域に開かれた学校づくり	○保護者、地域、関係機関との連携の推進(幼保小連携含む)	○教育活動の充実のため、保護者、地域、関係機関と効果的に連携できたと回答した教職員75%以上。 ○学校は教育活動の様子を分かりやすく伝えていると回答した保護者75%以上。	・学校だよりの発行や学校ホームページの更新を定期的に行い、教育活動の様子を随時伝える。 ・地域人材リストや地域連携カリキュラムの作成・更新と効果的な活用	A	・学校評価アンケート(職員用)で、「教育活動の充実のため、保護者、地域、関係機関と効果的に連携できたか」の項目に肯定的な回答をした教職員は67%だった。 ・学校評価アンケートで、「学校は教育活動の様子を分かりやすく伝えているか」の項目に肯定的な回答をした保護者は99%、職員は87%だった。	A	・コロナ下で効果的な連携は厳しかったのですが、新年度よりコミュニティスクールがスタートしますので、教職員の方々と一緒に考えていきたいと思っています。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・全体的に、どの項目についても、達成することができていた。各担当者の企画・立案について、全校が一丸となって取り組む事ができた成果と言える。</p> <p>・「確かな学力の定着」の項目で、「自分の考えを話すことができる」と答えた児童は69%に留まった。全国学力学習状況調査や県学習状況調査の結果から、本校の児童には、長文を読み取る能力や読み取ったことに対して自分の考えをまとめたり、表現したりする能力に課題があることが分かった。次年度は、特に長文を読み取る能力と自分の考えを表現する能力の向上に重点を置いて指導を行いたい。</p> <p>・「いじめ防止等についての組織的な対応」の項目で、肯定的な回答をした教職員は93%だったが、その内「あてはまる」と回答した教職員は60%に留まった。いじめに係る事案を担任だけが抱え込まず、教頭に限らず教務主任、生徒指導主任等にも相談できるよう組織体制の輪を広げていく。</p>
----------------	---